

## 「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の見直しについて(案)

～【推進プラン】から【ガイドライン】へ～

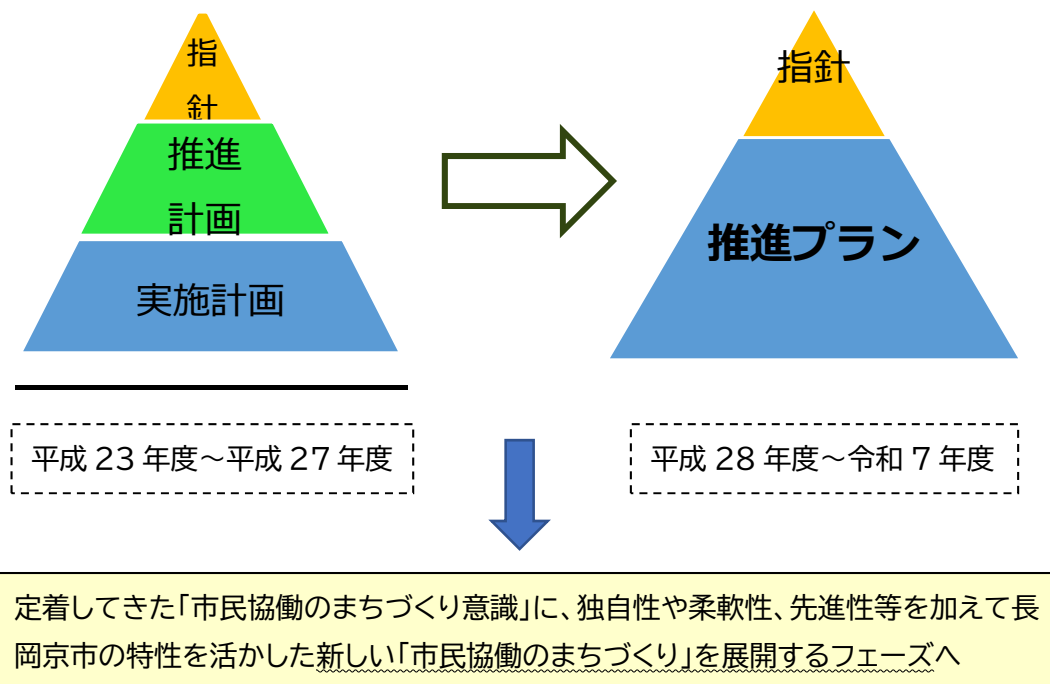
### 1. 推進プラン策定の経過と現在地

本市では、市民協働のまちづくりを推進するにあたり、平成 21 年度に基本的な考え方を示した「長岡京市市民協働のまちづくり指針」を策定しています。平成 22 年度には指針を計画的に進めるために「長岡京市市民協働のまちづくり推進計画」を、平成 23 年度には推進計画を具体的に進める行動計画として「長岡京市市民協働のまちづくり推進実施計画」を策定しました。

平成 28 年度には「推進計画」「実施計画」の期間終了に伴い「推進・実施」両計画を融合した「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」を策定し施策の推進に努めてきました。

平成28年度～令和2年度、令和3年度～令和7年度を計画期間とした推進プランで市民協働のまちづくりの進捗を評価しながら、市民協働意識の定着や、市民協働まちづくりの実働に取り組んできたところです。

現在、推進プラン進捗のフェーズでいうと、多くのプラン項目で評価点の最高点(3点)を獲得するなど、一定の市民協働意識や行動が定着してきた成熟期に入ったと考えます。この成熟期フェーズの機会を捉え、市民協働のまちづくりに長岡京の独自性や先進性、担当職員や関係市民等の柔軟性などを発揮しながらさらなる市民協働のまちづくり展開に取り組むべき現在地にあると考えます。



## 2. 推進プランの現状と課題

「市民協働のまちづくり」を具現化するため、平成28年度から令和7年度までの10年間にわたり、「推進プラン」に沿って進捗管理を行いながら取り組みを進めてきたこととなります。

その間、協働の成熟度やニーズの変化、社会状況などを踏まえて、プラン項目や、評価指標の見直しを行ってきました。その成果もあり、評価指標の達成率は着実に上昇し、市民協働意識の定着や協働環境の整備などが進められてきたと言えます。

※参考「達成率の経年表」

|     | 平成 28<br>年度 | 平成 29<br>年度 | 平成 30<br>年度 | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 |
|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| 達成率 | 59%         | 60.8%       | 64.7%       | 70.8%     | 63.8%      |

|     | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 令和 6<br>年度 | 令和 7<br>年度 |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|
| 達成率 | 78.9%      | 84.2%      | 86%        | 87.7%      |            |

推進プラン策定以降、施策体系の項目ごとに評価指標を設定し、その数値を達成できているかという進捗管理をすることで、「協働のまちづくり」の全庁的な定着を図ってきたところです。

しかし、協働の推進のために行う事業や取り組みについては、数値や一部の関係課の実施確認だけで表現することが難しく、プラン内容の本質をブレさせる場合や、ともすれば評価のためのプランになってしまっている傾向が見られ始めました。

例えば、「Ⅰ－1－① 市民参画協働の情報発信」については、広報長岡京や市ホームページへの協働マニュアルの掲載や市民活動紹介掲載などを評価指標としており、参加募集の記事の回数を実績として報告していたり、市民コーナーに掲載されているメンバー募集の記事を実績にあげるなど、協働を意識した情報発信というよりは、結果的に実績になっていたというケースがあります。

また、「Ⅱ－1－① 審議会等への市民公募委員の参画促進」では、市民公募委員の各審議会等への登用のパーセンテージを評価指標としているが、こちらは、ここ5年、100%を継続しており、既に当たり前の事項として職員の中に定着していることから、進捗の管理としては必要性が薄いものとなっています。

その他の項目にも数値を追いかけることの様々な課題があるところですが、全体的に言えることとして、協働の推進については、回数や実施することが重要なのではなく、その

質やプロセスが大事であるということです。また、その質やプロセスは、事業ごとに様々な手法やタイミングがあるということを認識する必要があります。

つまり、担当者の創造力や柔軟な発想、そして何よりも自分たちが取り組む市政運営を上質なものにするためには、市民の参画なくしては進められないというマインドをもち事業に携わることが必要不可欠と考えます。

### 3.【推進プラン】から【ガイドライン】への見直し

本市の「市民協働のまちづくり」に対する意識の定着や、市民の参画状況などの現状と、様々な課題等を踏まえて、現推進プランの在り方を抜本的に見直したいと考えます。

見直しの主な内容は、推進項目ごとに指標を設定し数値評価を行うスタイルから、事業実施時の協働ガイドラインの設定を行い、経年的な協働意識の変容調査や協働状況の市民評価などを別途行うスタイルへの変更を行います。

|              | 推進プラン                                                                                                                                                                              | ガイドライン                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 設定内容         | <b>◆推進項目を設定</b><br>・市民参画協働の情報発信<br>・協働事業報告会、団体活動発表会の開催<br>出前ミーティング講座の実施・広報<br>・「市民協働研修・ワークショップ」開催<br>・市民参画協働政策研究会(協働ワーキング)の活動<br>・審議会等への市民公募委員の参画促進<br>・パブリックコメント制度の活用と推進<br>等々。。。 | <b>◆事業項目ごとのマニュアルを設定</b><br>・計画策定時の意見募集やパブコメ、情報提供をVoiceNAGAOKAKYOで行う<br>・イベント実施時のアイデア募集をLINEで行い市民に実行委員会や主催スタッフとして参画を<br>・公共施設や空間整備の改築や再整備の際に現地説明会やワークショップを開催<br>・事業チラシやSNS発信など、広報活動に市民ライターを活用する<br>等々。。。 |
| 推進手法<br>評価手法 | <b>◆各項目ごとに実施回数などの評価指標を設定。</b><br><b>◆年度ごとに評価指標の達成回数などで点数を算出し評価</b>                                                                                                                 | <b>◆各事業を実施する際に、職員自らがガイドラインに沿ってセルフチェックを行いながら必要な協働を行う。</b><br><b>◆年度ごとの指標評価やセルフチェック評価などは行わず、Voiceを活用した意識変容調査や市民評価を経年的に行い、協働マインドの定着などを計る</b>                                                               |
| 期間設定         | <b>◆5年ごとのプラン期間(見直し)</b>                                                                                                                                                            | <b>◆必要に応じてガイドライン項目や事例などを随時追加(削除)</b><br><b>※「取組みフェーズ」設定など検討</b>                                                                                                                                         |
| その他          | <b>◆進捗管理を数値で具体的にを行う手法は、協働のスタート期から成長期には、職員の意識の定着や施策の推進に有効な手法であった</b>                                                                                                                | <b>◆ガイドラインには、具体的な協働手法の記載の他、実例や成功体験などを事例集として記載し、職員一人一人がより実務に落とし込みやすいようにする</b><br><b>◆全職員に協働意識、全事業に協働行動を</b><br><b>◆マスト項目とベター項目を設定 等々</b>                                                                 |

※ 推進プラン➡ガイドライン = 協働マインドの当たり前化・本市独自の協働スタイルを確立